



14歳

中学生
職場体験学習

地域に学ぶ5日間

働くことの素晴らしさ、喜び、厳しさを学ぶ5日間
市教育委員会は桜町中、大東中、千厩中をモデル校に5日間の職場体験学習「キャリア・ソーシャル・スキル・アップ事業」を実施。そのうち大東中、千厩中2年生は8月28日から9月1日まで、地域の職場を体験しました(桜町中は11月上旬に実施予定)。生徒たちが学んだこと、見つけたことを、周りで支える人たちの視点を交えて紹介します。

生徒を支えるサポーター

働くことはあいさつから



大東中学校教諭
岩瀨 秀男 さん

これまでも1、2日間の職場体験は行ってききましたが、5日間という長期は初めてです。一番の心配は、言葉遣いとあいさつ。1日の体験では、生徒も緊張しているのだから、あまり目立ちませんでしたが、5日間ではそうはいきません。実際、あいさつと言葉遣いについて、多くの事業所から指導をいただきました。

働くことは、まずあいさつから始まる。気持ちをはっきりと示すのが大切だと生徒たちも多く学びました。生徒たちの日誌、事業所へ出した礼状、体験をまとめた個人新聞からもよくわかります。この体験を忘れず、今後の生活に生かしてほしいです。

一人一人が責任果たし組織が動く



千厩病院看護科
で職場体験した
藤野 奈菜 さん
千厩中2年

は動いていけない。一人だけならとサボってはいけません。看護師だけでなく、病院で働くすべての人が院内感染を防ぐために、心をつとめて働いている姿が印象的でした。裏方だけど、掃除も大切な仕事なんですね」と話します。

「看護師の先輩たちは、仕事中にはもちろんですが、昼食時にも『あの患者さんはこうした方がいいね』と、常に患者さんのことを考えていたのが心に残りました」

看護師をはじめ、医師、各種技師など幅広い分野がある職場を体験し、「将来は医療関係に進みたい」と改めて考えた藤野さんでした。

「家族が心臓病。少しでもその助けになれば」。藤野奈菜さんが千厩病院看護科での職場体験を志した理由です。シーツ交換、昼食の配膳と介助、お風呂上がりの患者さんの体をふいたり、診療方針を決める会議を見学したりしました。

苦労したのは「シーツ交換。寝たきりの患者さんが多いし、ベッドのマットレスは重くて、とても重労働でした。そのほかの仕事もほとんど立ちっぱなし。身体的にはつらかったです」と振り返ります。

一方で、楽しかったことも「シーツ交換。わたしは内気な性格なので、はじめはドキドキしながらベッドを回りました。短い時間でしたが患者さんたちから温かく声をかけてもらって、交流できました」とうれしそうに話します。

働く上での責任の重さを実感した藤野さん。二人一人がきちんと責任を果たさないと、大きな組織



自分で選んだ事業所での職場体験で、生徒たちはたくさんのお話を学びました

楽しんで取り組むことの大切さ

佐藤大翼君が婦人用革靴を製造する(有)ガイアを希望した理由は、「もの作りに興味があった」から。掃除、朝礼に始まり、ラバーを塗ったりアイロンで熱するなど革の加工や、製品の箱詰めなどを行いました。仕事には、「迷惑をかけないように」という一心で取り組んだという佐藤君。ガイアの製品は、1足数万円もする高級品。自分が製品を駄目にしちゃいけないと、緊張しました。

思い出は、最終日に、ベンケース、小銭入れ、キーホルダーを作らせてもらい、記念に持ち帰ったこと。「小銭入れ

は母に、キーホルダーは父にプレゼントしました。『結構立派だね。本当に自分で作ったの?』とうれしそうでした」

職場でたくさんのお話を学んだ佐藤君。「主任さんが『仕事は楽しみながらしないとできない。つまらないと思ってしまうと失敗するよ』と言っていたことが印象的。自分が興味を持ったことを、楽しんで取り組んでいきたいと思いました」

将来は、「何とまではいえないけど、もの作りに関する仕事に就きたい」と夢が少しだけ具体的にになりました。



(有)ガイアで職場体験した
佐藤 大翼 君 (写真左) 大東中2年

やり遂げたことが大きな自信に

日ごろ柔道部で活躍し、「新人戦前の貴重な5日間が、職場体験のせいだ。部活が休み。行きたくなかった」と率直に打ち明ける藤村匠君。日野屋ブックセンターで清掃、入荷した本の確認、レジの商品包装、学校図書室に納品する本へのラベル張りなどを行いました。

苦労したのは、ラベルを整えて1冊1冊に張っていくこと。「細かい作業が苦手なので、とても疲れました」と振り返ります。

これまで考えなかった父親の仕事や働くことへの認識を新たにした藤村君。

「父は大工で、何げなく働いているように見えていましたが、働くことがこんなに大変だとは思いませんでした。実際は、ちょっとしたことでも疲れますね」。学校や部活での疲れとは種類が違うことを体感しました。

将来のことはまだわからないという藤村君ですが、「仕事というのは地味で細かい作業の繰り返しだということがわかりました。何かをやり遂げる自信になりました。今では行ってよかったと思っています。働くことに対するイメージが形になってきたようです」。

「社会力」を高める手だてに



ジョブカフェいわてサテライト一関
金野 馨 さん

ジョブカフェでは、高校生や大学生をはじめとする若年者の就職活動支援を行っています。今回の職場体験では、学校と受け入れ事業所の支援を担当。職場体験を効果的にするため、3回にわたり出前授業も行いました。

現代の小・中学生は、家庭と学校しか知らず、社会性に乏しいのが現状。それをなんとかしようと、中学生が5日間の職場体験学習を行う取り組みは全国的に行われています。「人間力」「社会力」を高める手だてです。高校生でも大学生でも、社会を知らずに就職し、その落差に驚いてやめてしまう人がいかに多いことか。社会人としての基礎力をつけようとする取り組みは、高校生になつてからでは遅いのです。

中学生のキャリア教育は、高校生や大学生に対するものとは違います。まだ人格が出来上がっていないので、あまり厳しくして、仕事へのマイナスイメージを持たれないようにする必要があります。生徒個々の発達状況を見て接することが大切です。

今回の体験は、ある特定の仕事を詳しく知るといふより、学校と家庭以外の社会を知ることを狙いとしています。ですから、その仕事に対する自分の適性というより、体験を通じて社会というものを幅広い目で見ることができるようになってほしいです。